

J.LEAGUE™ NEWS

J1リーグ戦の 新たな大会方式が決定



2015シーズンから実施。2ステージ制を導入、
スーパーステージとチャンピオンシップを開催

2015シーズンからのJ1リーグ戦の大会方式が、9月17日に開催したJリーグ理事会で決定した。新たな方式は2ステージ制の導入、ポストシーズンにおけるスーパーステージ、チャンピオンシップの開催。Jリーグの継続的な成長を実現するための施策やシーズン移行、大会方式などを検討してきたJリーグ戦略会議が具体的な大会方式の案を策定。Jクラブ実行委員との意見交換会を踏まえ、J1・J2合同実行委員会で議論を重ねた後、理事会での審議・決定に至った。また、来シーズンから始まる予定のJ3は、参加への第1段階となる準加盟クラブが出そろった。今後、スタジアム要件やライセンス基準の審査など、J3参加に向けた次の段階へ進む。(2、6ページに関連記事)

J.LEAGUE™ TOP PARTNERS

Calbee

Canon

KONAMI

AIDEM

Coca-Cola

McDonald's

JCB

J.LEAGUE™
100 YEAR VISION
PARTNER

J.LEAGUE™
FAIRPLAY PARTNER

LEAGUE CUP
SPONSOR

SUPER CUP
SPONSOR

J.LEAGUE™ OFFICIAL
EQUIPMENT PARTNER

J.LEAGUE™
OFFICIAL SUPPLIER

J.LEAGUE™ OFFICIAL
BROADCASTING
PARTNER

SPORTS PROMOTION
PARTNER

J.LEAGUE™ OFFICIAL
TICKETING PARTNER

朝日新聞

東映エレクトロニクス

ヤマザキナビスコ

FUJIXEROX

adidas

Johnson & Johnson

スカパー!

トヨタ

ぴあ

2015シーズン以降の J1リーグ戦大会方式について

Jリーグは、2015シーズン以降のJ1リーグ戦大会方式を、現行の1ステージ制ホーム&アウェイ方式の総当たりリーグ戦から、別掲のような方式へ変更することを決定した。

過去には、Jリーグが開幕した1993年から2004年(96年を除く)に2ステージ制のリーグ戦およびチャンピオンシップを実施した。今回の変更で大きく異なるのは、シーズンを通して最も多くの勝点を獲得したチームが、チャンピオンシップへの出場権を獲得できる点。年間勝点1位チームをリスペクトし、その優位性を重視した。

大会方式の変更によって、シーズン中にいくつものヤマ場ができる。タイトルが懸かった試合を複数設定することで、リーグ戦はこれまで以上の活性化が期待される。Jリーグへの関心、注目がさらに高まれば、ファン・サポーターの裾野をライト層へ広げることも可能となり、国民的なコンテンツとしての成長にもつながるだろう。

また、年間順位の決定については、AFCチャンピオンズリーグの出場権、賞金のあり方にも密接に関わることから、今後、慎重に検討を重ねていく。

大会方式変更の根底にあるのは、Jリーグのさらなる成長へ向けた基盤の強化だ。開幕から20周年を迎え、その成果が高い評価を受ける一方、近年は入場者数や収入の伸びが鈍化し、メディア露出の減少傾向があるのも事実。こうした状況の下、Jリーグの魅力を高めるための新たな原資確保が必要となり、収入とメディア露出の増加を実現できる施策の検討が急務となっていた。

Jリーグは今回の変更によって、地上波のテレビ放送を含めた露出の拡大、全体収益の10億円以上の増加、新たなファンの獲得を想定している。それによる収益を、クラブへの配分ではなく、Jリーグの事業拡大を目指す活動や選手育成などに投資していくことに、全クラブの実行委員が合意した。

一方、大会方式変更による効果については、一定の評価基準を設け、ある程度の期間で効果測定を行う。大東和美チェアマンは、その上で「Jリーグの成長のために何が必要か、継続的に、柔軟に対応していく」と語っている。

もちろん、大会方式の変更が改革の全てではなく、大切なのは将来に向けた持続可能な成長戦略、ビジョンを持つこと。Jリーグがさらに成長し、発展していくためには、何よりもピッチ上のクオリティの向上、選手育成への投資、世界に誇れる選手を恒常的に輩出する基盤や観戦環境の整備が必要不可欠となる。今回の大会方式変更は、そうしたビジョンを実現するための手段の一つである。

大会方式変更にあたって

Jリーグは本日の理事会において、2015シーズンよりJ1リーグ戦の大会方式を2ステージ制のリーグ戦およびスーパーステージとチャンピオンシップに変更することを決定しました。

大会方式を変更することで、J1リーグ戦をこれまで以上に活性化させ、スーパーステージやチャンピオンシップに注目が集まることによってJリーグが今以上に国民的なコンテンツに成長し、多くの方々に関心を持っていただき、ファン・サポーターの裾野をさらに広げることを目指します。

Jリーグは1993年の開幕から20年間、プロサッカーリーグを運営する一方で、Jクラブと共にJリーグアカデミーの拡充、育成年代の大会整備などによる選手育成、審判員の養成、地域スポーツの振興活動、ホームタウンの活性化などに取り組んでまいりました。20年前から続く日本におけるサッカー文化の醸成への地道な投資活動が、現在確実に実を結び、そして花開き始めています。

プロスポーツとして多くの人々に愛され、フットボールエンターテインメントを楽しんでいただくと同時に、サッカー界の未来にとどまらず、日本におけるスポーツ全体の価値を高めることに対する継続的な投資は、今やJリーグが果たすべき役割の中軸にあります。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックの招致が決定し、将来に向けての投資活動を継続することの重要性は、今後ますます高まっていくでしょう。

また、これまでメディアを通じてご説明させていただいた通り、国内リーグであるJリーグを取り巻く環境はこの20年で激変し、私どももグローバルリズムの影響を意識せざるを得ません。

現在のJリーグは、開幕当初や一時期と比較して平均入場者数の伸びが鈍化し、一般的な関心度が下がっているという現実があります。こうした状況を変え、Jリーグがさらに発展成長していくための手段の検討と実行が今、急務となっております。

今回の大会方式の変更は、ファン・サポーターの方々の声もいただきながらJリーグ・Jクラブに関わる多くの方々が背景を共有した上で、それぞれの立場を超えて議論して至った結論です。

この決定は、決して過去への回帰ではなく、未来への前進です。

チェアマンとして、私も全力で尽力してまいります。全ての関係者の皆さまのご支援とご協力を賜り、これからの新たなJリーグの歴史を皆さまと共に刻んでまいります決意です。

公益社団法人 日本プロサッカーリーグ
チェアマン 大東 和美
2013年9月17日

2015シーズン以降のJ1リーグ戦大会方式について

大会方式

18クラブによる2ステージ制リーグ戦および、スーパーステージとチャンピオンシップ

〔リーグ戦〕

各ステージ1回戦総当たりのリーグ戦

- ・ 両ステージでホーム&アウェイとなる
- ・ 各ステージ17節、153試合(両ステージ合計306試合)
- ・ 年間勝点1位のクラブはチャンピオンシップへ、各ステージ1位、2位クラブはスーパーステージに進出する

〔スーパーステージ〕

各ステージの上位2クラブによる、ノックアウト方式のトーナメント戦

1stステージ1位と2ndステージ2位、2ndステージ1位と1stステージ2位で1回戦を行い、勝利クラブが2回戦に進出。2回戦の勝利クラブがチャンピオンシップに進出する

※各ステージの上位2位クラブの中に年間勝点1位クラブが含まれる場合や、当該クラブが重複する場合のスーパーステージの開催方法については、決定次第発表する

〔チャンピオンシップ〕

年間勝点1位のクラブと、スーパーステージの勝利クラブによる対戦(1試合)

- * リーグ戦の試合会場は原則として各クラブのホームスタジアム
- * スーパーステージ、チャンピオンシップの試合会場については決定次第発表
- * 年間順位の決定方法については決定次第発表
- * 1st・2ndステージ、スーパーステージ、チャンピオンシップなどの名称は現時点での仮称

スーパーステージおよびチャンピオンシップ



Jリーグアカデミー 恒例の海外キャンプ



U-15 Jリーグ選抜 ブラジルキャンプ

U-15 Jリーグ選抜の海外キャンプは、同キャンプで最も長い歴史があり、今回が9回目の実施となった(8月25日～9月4日)。キャンプ先のブラジルでは、リオデジャネイロ州のジーコサッカーセンターなどが会場となる、「第16回日伯友好カップ」に出場。昨年に続くグループリーグ突破が期待されたものの、1勝2敗の成績で3位となり、準々決勝進出は成らなかった。

選手たちは、日本から28時間という長旅、12時間の時差調整という体験をしながら、大会初戦こそ0-1の敗戦も、第2戦ではコリンチャンスに1-0の勝利を収めた。攻守の切り替えに鋭さが増し、相手ボールに対しても果敢にチャレンジ。戦術理解も深まった成果が表れた。準々決勝進出が懸かったバスコ・ダ・ガマとの第3戦は、先制もむなく1-3の逆転負けで敗退が決まった。この試合では、プロを目指す現地の同年代の選手に、もう一段上の力を見せつけられた格好。だが、慣れない環境で戦い抜き、味わった悔しさは必ずや、今後の成長につながるはずだ。

© J.LEAGUE PHOTOS



第2戦の対戦相手、コリンチャンスの選手たちと共に

© J.LEAGUE PHOTOS



コリンチャンスは非常に強力なチーム。その相手に、一進一退の攻防の末に勝利を飾った

© J.LEAGUE PHOTOS



大会を終え、ジーコサッカーセンターで関係者の話を聴く選手たち

Photo by Jorge Ventura & George Henrique

U-15 Jリーグ選抜 ブラジルキャンプ 参加メンバー

<スタッフ>

氏名	所属	氏名	所属
団長 藤村 昇司	Jリーグ	GKコーチ 濱田 堯	ジェフユナイテッド千葉
監督 菅澤 大我	ジェフユナイテッド千葉	トレーナー 益 賢明	平成医療学園専門学校
コーチ 矢畑 智裕	松本山雅FC	主務 重野 弘三郎	Jリーグ

<参加選手>

ポジション	氏名	クラブ	ポジション	氏名	クラブ
GK	波多野 豪	FC東京	DF	北西 真之	大宮アルディージャ
	加治屋 歩夢	大宮アルディージャ		坂本 一真	徳島ヴォルティス
DF	堀 航輝	アルビレックス新潟		松本 歩夢	ガンバ大阪
	関 海斗	横浜F・マリノス		杉本 崇太郎	名古屋グランパス
	高橋 海人	FC東京		菊池 俊吾	ジェフユナイテッド千葉
	依田 章汰	ヴァンフォーレ甲府		平田 竜士	東京ヴェルディ
	高山 賢太郎	ロアッソ熊本	FW	菅 大輝	コンサドーレ札幌
MF	崎村 祐丞	アビスパ福岡		北原 湊	ジェフユナイテッド千葉
	矢野 友尊	柏レイソル		西田 優太	横浜F・マリノス



U-16 Jリーグ選抜 韓国キャンプ

今回が4回目の海外キャンプ実施となるU-16 Jリーグ選抜は、昨年に続き韓国でKリーグクラブの育成組織チームなどとトレーニングマッチを行った(8月20～27日)。トップチームでのプレーも視野に入る年代で、試合で明らかになった課題をミーティングで共有しながら解決への道を探り、それを次の試合で生かすといった「自らで考える」ことを重要なテーマに据えたキャンプだった。

初戦は韓国のユースレベルでトップクラスの浦項スティーラーズを相手に、1-1の引き分けと健闘した。第2戦は蔚山現代に2-3と惜敗し、その後は釜山アイパークに4-0、大邱FCに0-3、さらに再度対戦した浦項に0-1と試合を重ね、Kリーグ勢との対戦は1勝1分3敗となった。

午前はトレーニング、午後は試合、夜はグルーブディスカッションという



ユネスコの世界遺産にも登録されている仏国寺を見学

© J.LEAGUE PHOTOS



第2戦は蔚山現代に競り負けたものの、攻撃には改善の跡が見られた



その日の成果、課題などをグルーブディスカッションで話し合う

U-16 Jリーグ選抜 韓国キャンプ 参加メンバー

<スタッフ>

氏名	所属	氏名	所属
監督 望月 一仁	ジュビロ磐田	トレーナー 玉置 亮平	平成医療学園専門学校
コーチ 池谷 孝	清水エスパルス	主務 鈴木 茜	Jリーグ
GKコーチ 辻 崇志	ガンバ大阪		

<参加選手>

ポジション	氏名	クラブ	ポジション	氏名	クラブ
GK	加藤 有輝	大宮アルディージャ	DF	森 俊貴	栃木SC
	桂 大輝	ファジアーノ岡山		笹田 翔	ザスパクサツ群馬
DF	垣田 裕暉	鹿島アントラーズ		中村 亮太	松本山雅FC
	前嶋 洋太	横浜FC		高橋 大樹	カタレ富山
	田口 雄太	清水エスパルス		津島 孝至	ジュビロ磐田
	吹ヶ 徳喜	名古屋グランパス		磯江 太勢	ガイナレ鳥取
	山川 哲史	ヴィッセル神戸	FW	小原 伯義	水戸ホーリーホック
	田野内 和輝	愛媛FC		寺久保 辰哉	湘南ベルマーレ
MF	縄 靖也	ベガルタ仙台		岩城 慶樹	ギラヴァンツ北九州

柏レイソルが日本勢として4年ぶりに4強入り



AFCチャンピオンズリーグ(ACL)2013準々決勝第2戦の4試合が9月18日にアジア各地で行われ、柏レイソルはアウェイでアルシャバブ(サウジアラビア)と2-2の引き分け。ホームの第1戦も1-1で対戦成績は2引き分けとなったが、アウェイの得点数で上回る柏が準決勝進出を果たした。日本勢の4強入りは、2009年の名古屋グランパス以来4年ぶり。広州恒大(中国)との準決勝は、第1戦がホームで同25日、第2戦がアウェイで10月2日(水)。

柏は10分に先制を許したが、相手のオウンゴールと73分のDF近藤直也の得点で勝ち越し。1点を返されたものの、引き分けに持ち込んだ。ネルシーニョ監督は「評価すべきは守備。最後まで(集中が)切れることなく、途中の

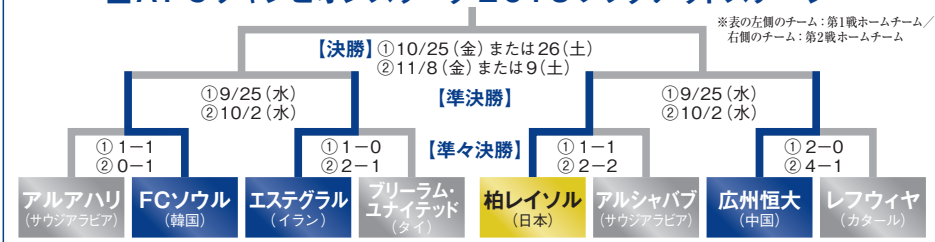
相手の変化にも対応できた」と振り返った。

準決勝で対戦する広州恒大は、昨年のACLグループステージでも対戦し、1分1敗と負け越した。その雪辱を果たすと共に、07年の浦和レッズ、08年のガンバ大阪に続く決勝進出が期待される。ホーム&アウェイによる決勝は、第1戦が10月25日(金)または26日(土)、第2戦が11月8日(金)または9日(土)の予定。



アウェイの厳しい戦いを克服して4強入りを果たした柏

■AFCチャンピオンズリーグ2013 ノックアウトステージ



準決勝第1戦は柏レイソルと川崎フロンターレが勝利



2013 Jリーグヤマザキナビスコカップ準決勝第1戦が9月7日に開催され、柏レイソルが横浜F・マリノスに4-0、川崎フロンターレが浦和レッズに3-2と勝利した。第2戦は10月12日(土)に行われる。

柏は前半だけで3得点を奪い、試合の主導権を握って決勝進出に大きく前進した。先制

は18分、MFジョルジ ワグネルのパスを受けたFW田中順也が、得意の左足シュートでゴールネットを揺らした。さらに田中が1点を加え、ジョルジ ワグネルも2得点。横浜FMはシュート数で11-9と上回りながら、チャンスを生かせなかった。

川崎Fは見事な逆転勝ちを演じた。浦和のFW興梠慎三に2点を許し、47分までに2点のリードを許した。だが、67分にFWレナトが1点を返すと、79、80分にFW大久保嘉人が連続得点を挙げて逆転に成功した。



2得点を挙げて川崎Fを逆転勝ちに導いた大久保(左)



柏の田中(右)は得意の左足シュートで2得点

■2013 Jリーグヤマザキナビスコカップ 決勝トーナメント

※表の左側のチームをホームチーム扱いとする(表の右側のチーム：第1戦ホームチーム／左側のチーム：第2戦ホームチーム)



天皇杯は2回戦からJクラブが登場



第93回 全日本サッカー選手権大会

第93回天皇杯全日本サッカー選手権大会は、9月4、7、8、11日の2回戦からJクラブが登場した。

柏レイソルは筑波大学に4-2で、2連覇に向けて好スタート。前回大会準優勝のガンバ大阪は、FC今治(愛媛県代表、四国リーグ)に5-0と大勝した。FC東京、ヴァンフォーレ甲府

は、それぞれ昨年の2回戦で苦杯を喫した横河武蔵野FC(東京都代表、JFL)、福島ユナイテッドFC(福島県代表、JFL)に雪辱した。コンサドーレ札幌は、ベトナム人選手のFWレコンビンの2得点などで、北海道教育大学岩見沢校(北海道代表)に4-1と勝利した。

3回戦は10月13日(日)、14日(月・祝)、16日(水)に行われる。



清水エスパルスはFW大前元紀(写真左)の先制点などで藤枝MYFC(静岡県代表、JFL)を2-0で下した

「コカ・コーラ Jリーグ 月間MVP」 8月の受賞選手決定

各月のリーグ戦（J1、J2）において最も活躍した選手を表彰する「コカ・コーラ Jリーグ 月間MVP」の8月度の受賞選手が決定した。J1は鹿島アントラーズのFW大迫勇也、J2がガンバ大阪のMF宇佐美貴史。受賞したJ1選手には賞金として30万円、J2選手には同じく20万円を授与。サッカーメディアとJリーグからなる選考委員会によって選ばれる。



鹿島の大迫は8月の6試合にフル出場し、4試合連続で計6得点の活躍

Jリーグ20周年記念企画 「Jクロニクルベスト」表彰

Jリーグ20周年を記念して、過去20年間の「ベストゴール」「ベストイレブン」「ベストマッチ」をサポーター投票で決定した「Jクロニクルベスト」で、ベストイレブンに選ばれたガンバ大阪のMF遠藤保仁の表彰が9月1日に万博記念競技場で行われた。



表彰を受けた遠藤。右は大東チェアマン

簡易照明贈呈式

Jリーグから千葉県銚子市への簡易照明贈呈式が8月24日、県立カシマサッカースタジアムで行われた。J1リーグ戦第22節、鹿島アントラーズ vs 横浜F・マリノスで開催された銚子市のPRイベント「フレンドリータウンデイズ銚子の日」に合わせて実施された。Jリーグでは現在、Jリーグの試合を開催するスタジアムなどで実施している「Jリーグ TEAM AS ONE 募金」の使途として、グラウンド用簡易照明を購入し、東日本大震災の被災地沿岸部を対象に96台を寄贈。新たに6台を銚子市へ贈った。

銚子市は被災地の一つであり、多くの市民が野球やサッカーを楽しむ銚子市野球場が損傷や劣化。照明塔から複数の電球が落下したため、全ての電球が撤去された。そのため、市民スポーツへ大きな影響が生じ、同市をフレンドリータウンとして活動する鹿島からJリーグへ報告があり、今回の寄贈に至った。



贈呈式で感謝を述べる越川信一 銚子市長。右はJリーグの中野幸夫 専務理事

2013 J1リーグ戦を 台湾地上波（公共テレビ）で放送開始

台湾の地上波公共テレビ局であるPTS（公共電視）で、2013年9月2日よりJ1リーグ戦の録画放送（1節あたり3試合）を開始した。台湾でJ1の試合が定期的に放送されるのは初めて。PTS HD、PTS 2の2チャンネルで、共に毎週、月、火、水曜日に放送されている。

なお、13年9月2日現在で、J1が定期的の中継（録画を含む）されているのは108カ国。そのうち、東アジア、東南アジアではシンガポール（ケーブル）、タイ（ケーブル・地上波）、台湾（地上波）、中国（ケーブル）、ベトナム（ケーブル）、香港（ケーブル）、マレーシア（ケーブル）、ミャンマー（ケーブル）の8カ国で放映されている。

Jリーグ20周年 特別ショートフィルム 「旅するボール」を海外でも上映

Jリーグは、Jリーグ開幕20周年を記念して製作した20周年特別ショートフィルム「旅するボール」を、メキシコで行われたショートショートフィルムフェスティバル in メキシコ（9月5～11日）で上映した。同フェスティバルは8回目の開催で、ラテンアメリカを代表する映画祭。特別ショートフィルムを日本国外で上映するのは今回が初めてで、国外での上映は今後も追加される可能性がある。

COPA COCA-COLA JAPAN 2013 を後援

Jリーグは、9月17日に開催した理事会でCOPA COCA-COLA JAPAN2013 実行委員会が主催する「COPA COCA-COLA JAPAN2013」を後援することを決定した。同大会は、成長期にある中学生世代に対して、飲料製品に関する情報の提供や正しい水分補給、食育に関する認知・普及活動のほか、活動的で健康的な生活習慣づくりを、サッカーを通じて体験してもらえらる場をつくることを目的として開催される。

COPA COCA-COLA JAPAN 2013	
開催概要	全国より男女中学生サッカーチームが参加し、交流戦を実施する
主 催	COPA COCA-COLA JAPAN2013 実行委員会
特別協賛	コカ・コーラ
主 管	公益財団法人 東京都サッカー協会、一般社団法人 神奈川県サッカー協会、一般社団法人 大阪府サッカー協会（予定）
協 力	アディダス ジャパン株式会社
後 援	文部科学省（予定）
開催期間	2013年12月7日（土）～ 順次
会 場	〈東日本〉東京ヴェルディ練習グラウンド／マリノスタウン 〈西日本〉セレッソ大阪スポーツクラブ舞洲グラウンド／J-GREEN堺
参加チーム	〈東日本〉32チーム／〈西日本〉32チーム ※登録人数は、1チーム選手11～15名
参加資格	1998年4月2日以降生まれの中学生

第1回精神障害者スポーツ国際シンポジウムを後援

Jリーグは、9月17日に開催した理事会で、「第1回精神障害者スポーツ国際シンポジウム」（主催：精神障害者スポーツ国際化実行委員会／公益社団法人 日本精神保健福祉連盟／公益財団法人 日本障害者スポーツ協会）を後援することを決定した。本シンポジウムは、精神障害者スポーツの国際動向の遅れを鑑み、精神障害者・精神疾患者スポーツを国際的に発展させるための情報交換、国際大会の開催、国際ネットワークの構築を図ることが目的。2013年10月5日（土）の12:30～17:45（予定）に明治学院大学白金キャンパス2号館で開催し、日本、イタリア、アルゼンチンなど8カ国が参加する。

2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に関する 大東和美Jリーグチェアマンのコメント

「このたび、『2020年東京オリンピック・パラリンピック』の開催が決定いたしましたことを、心よりお祝い申し上げます。日本に豊かなスポーツ文化を醸成させることを理念に掲げるJリーグとして、世界最大のスポーツの祭典を首都 東京で開催できることを、心からうれしく思います。2020年のオリンピックで日本代表として出場するのは、現在15歳以下の選手たちです。Jリーグは、今後も育成年代の選手育成に力を注ぎ、そして日本におけるスポーツ文化を担う存在として、『2020年東京オリンピック・パラリンピック』の成功に向けて尽力してまいります」

Jリーグ準加盟、J3 スタジアム要件、J3ライセンス基準の審査結果について

来シーズンからスタートするJ3については、参加へのステップ1となる「Jリーグ準加盟への申請」を6月30日までにに行った13クラブのうち、9月17日のJリーグ理事会までに10クラブが承認された。これで準加盟クラブ数は計16となり、J3への参加を目指す場合は、ステップ2となる「J3スタジアム審査」、「J3ライセンス審査」を受けることになる。

8月の理事会でJリーグ準加盟が承認されたグルージャ盛岡、横浜スポーツ&カルチャークラブ(Y.S.C.C.)、レノファ山口に続き、9月の理事会ではヴァンラーレ八戸FC、福島ユナイテッドFC、tonan前橋、アスクラロ沼津、藤枝MYFC、奈良クラブ、FC琉球の7クラブが承認された。

このうち、地域リーグに所属する八戸、前橋、沼津、奈良の4クラブに対しては、「クラブの財務状況の改善に向け、クラブの経営基盤の強化に向けた計画を具体的に立案し、クラブを支える関係者とJリーグに説明の後、早急に実行に移すこと」「J3参加を希望する場合は、来期の予算を早急に編成の上、予算として見込んでいる収入を早急に確定させること」

という二つの付帯事項の一方、あるいは双方が指導項目として加えられた。これについてJリーグの大東和美チェアマンは「確実に実行してほしい」と要望した。

MIOびわこ滋賀(JFL)、栃木ウーヴァFC(JFL)、FC鈴鹿ランポーレ(東海社会人サッカーリーグ1部)については「審査継続」となり、2014シーズンのJ3参加はなくなった。

準加盟を承認されたクラブがJ3への参加を希望する場合は、ステップ2へ進み、10月の理事会までにJ3スタジアム審査、J3ライセンス審査を受ける。さらにJ3入会審査となるステップ3は、11月の理事会までに完了。クラブによっては、ステップ4の競技成績(順位)が

審査の対象となる。

また、AC長野パルセイロ、Y.S.C.C.、ブラウブリッツ秋田、盛岡、沼津の5クラブがJ3スタジアム審査に合格し、秋田、長野、SC相模原の3クラブが2014シーズンのJ3ライセンス審査に合格した。

今回の承認によって、Jリーグ準加盟クラブは16となり、J1・J2の40クラブと合わせた56クラブが、39都道府県に広がる。本件を記者会見で発表したJリーグの大河正明 管理統括本部長は「Jリーグは全国津々浦々にクラブをつくり、そこでスポーツを楽しみ、クラブで育った子どもたちの中から将来の日本を背負う選手や指導者、あるいはビジネスに関わる人々が生まれていくことを目指している。スポーツの裾野を拡大していくことが、将来的にスポーツ文化の発展に寄与し、ビジネス的にも基盤強化するための一つのファクターであると考えている」とコメントした。

■新たにJリーグ準加盟申請が承認された7クラブ (敬称略)

ヴァンラーレ八戸FC	
法人名	特定非営利活動法人クローバース・ネット 理事長：細越 健太郎
所在地	青森県八戸市南郷区大字市野沢字市野沢35
所属リーグ	東北社会人サッカーリーグ1部
ホームタウン	八戸市、十和田市、五戸町
ホームスタジアム(予定)	八戸東運動公園陸上競技場

福島ユナイテッドFC	
法人名	株式会社AC福島ユナイテッド 代表取締役：鈴木 勇人
所在地	福島県福島市飯坂町字筑前7-1
所属リーグ	日本フットボールリーグ(JFL)
ホームタウン	福島市を中心とする全県
ホームスタジアム(予定)	とうほう・みんなのスタジアム(あづま総合運動公園陸上競技場)

tonan前橋	
法人名	株式会社図南クラブ 代表取締役：菅原 宏
所在地	群馬県前橋市野中町447-1
所属リーグ	関東社会人サッカーリーグ1部
ホームタウン	前橋市
ホームスタジアム(予定)	前橋総合運動公園陸上競技・サッカー場

アスクラロ沼津	
法人名	アスクラロスルガ株式会社 代表取締役：山本 浩義
所在地	静岡県沼津市西熊堂711-1
所属リーグ	東海社会人サッカーリーグ1部
ホームタウン	沼津市
ホームスタジアム(予定)	静岡県愛鷹広域公園多目的競技場

藤枝MYFC	
法人名	株式会社藤枝MYFC 代表取締役：小山 淳
所在地	静岡県藤枝市高柳3-26-33
所属リーグ	日本フットボールリーグ(JFL)
ホームタウン	藤枝市、島田市、焼津市、牧之原市、吉田町、川根本町
ホームスタジアム(予定)	藤枝総合運動公園サッカー場

奈良クラブ	
法人名	特定非営利活動法人奈良クラブ 理事長：藤本 憲一郎
所在地	奈良県奈良市東九条町1112-1 中川政七商店内
所属リーグ	関西サッカーリーグ1部
ホームタウン	奈良市を中心とする全県
ホームスタジアム(予定)	奈良市鴻ノ池陸上競技場

FC琉球	
法人名	琉球フットボールクラブ株式会社 代表取締役：下地 良
所在地	沖縄県那覇市山下町30-12 高良ビル1F
所属リーグ	日本フットボールリーグ(JFL)
ホームタウン	沖縄市を中心とする全県
ホームスタジアム(予定)	沖縄市陸上競技場

【参考】現在のJリーグ準加盟クラブ

SC相模原(2010年2月～)／カマタマーレ讃岐(2011年2月～)／AC長野パルセイロ(2012年7月～)／FC町田ゼルビア(2013年1月～：J2からJFLへの降格クラブ)／ブラウブリッツ秋田(2013年2月～)／ツエーゲン金沢(2013年2月～)／グルージャ盛岡(2013年8月～)／横浜スポーツ&カルチャークラブ(2013年8月～)／レノファ山口(2013年8月～)

準加盟申請を行ったクラブの審査状況、J3については、Jリーグ公式ホームページで随時情報を公開しています。詳しくはそちら(<http://j3.j-league.or.jp/>)をご覧ください。

